

通し番号	5155
------	------

分類番号	R04-42-12-1
------	-------------

オリーブおよびユーカリ切り枝の観賞期間	
[要約] オリーブ切り枝の観賞期間は品種間差があり、‘コロネイキ’、‘マンザニコ’は長く、‘ネバディロブランコ’、‘ピクアル’は短い。観賞期間が短い品種は品質保持剤を加えることにより、夏期は2～5日、秋期は10日程度延長できる。ユーカリ切り枝の観賞期間は品種間差が小さく、夏期は‘グニー’が‘シルバーダラー’、‘ポリアンセモス’より2日長い。夏期の観賞期間は品質保持剤を加えることにより、2～3日程度延長できる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

フラワーアレンジ素材など実需者のニーズの変化に伴い、新たな切り枝品目が産地から望まれている。そこで、近年観賞樹として利用が増加している樹種等から新たな切り枝品目として、オリーブおよびユーカリについて観賞期間を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

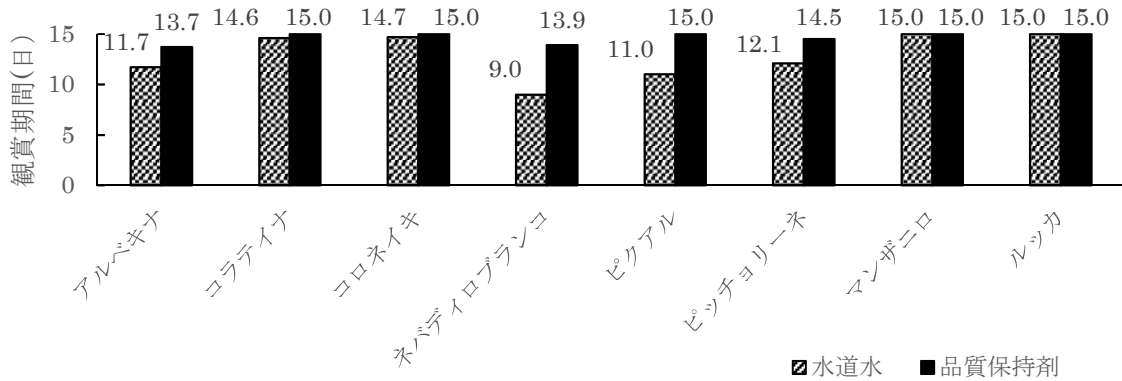
- 1 オリーブ切り枝の観賞期間は、夏期は‘コラティナ’、‘コロネイキ’、‘マンザニコ’、‘ルッカ’で15日程度と長く、‘ネバディロブランコ’、‘ピクアル’はそれよりも4～6日短い(図1A)。秋期は‘アルベキナ’、‘コロネイキ’、‘ピッチョリーネ’、‘マンザニコ’で18日程度と長く、‘コラティナ’、‘ネバディロブランコ’、‘ピクアル’はそれよりも4日程度短い(図1B)。
- 2 オリーブ切り枝の水揚げを改善する品質保持剤を活け水に加えることにより、観賞期間が短い品種も夏期は2～5日、秋期は10日延長できる(図1)。
- 3 ユーカリ切り枝の観賞期間は品種間差が小さく、春期および秋期では23～25日と長く、夏期は‘グニー’が10日程度で‘シルバーダラー’、‘ポリアンセモス’より2日長い。(図2一部データ省略)。
- 4 ユーカリ切り枝へ品質保持剤を加えることにより、夏期の観賞期間を2～3日程度延長できる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 実需者による利用を想定し、活け水は水道水を、品質保持剤は華の精(枝もの)50倍溶液を用い、室温は成り行きとした。試験期間中の平均気温は、夏期27℃、秋期19℃、春期16℃である。
- 2 夏期(6～7月)は観賞開始から15日目、秋期(10～11月)および春期(3～4月)は25日目で調査を終了している。
- 3 切り枝を活け水に浸漬する際に、水中で切り口を1cm切り戻している。

「具体的データ」

A



B

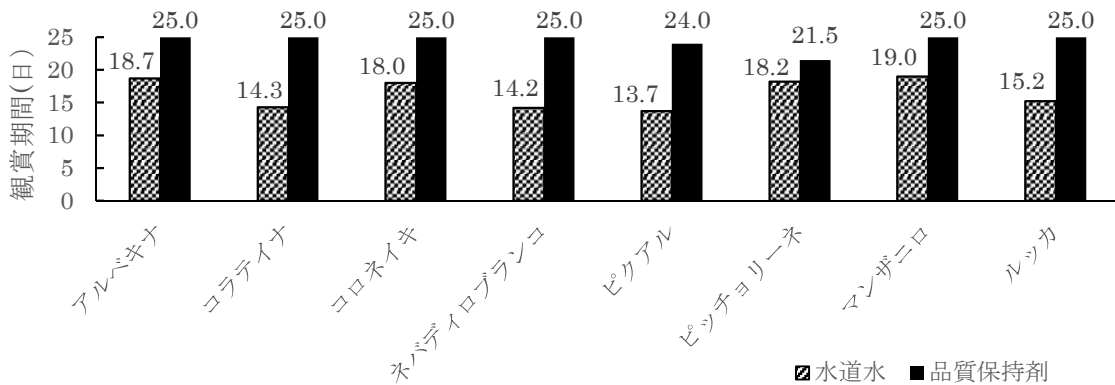
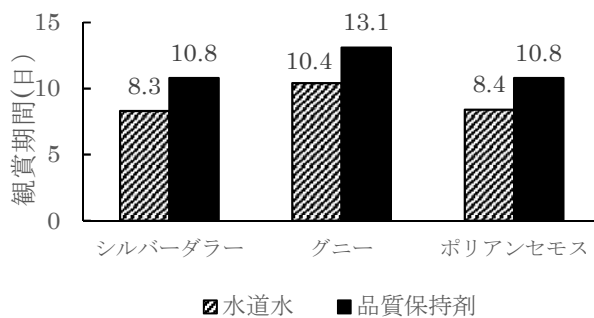


図1 オリーブ切り枝の品種と活け水の違いが観賞期間に及ぼす影響
A 夏期 (6月29日～7月14日)、B 秋期 (10月14日～11月8日)

A



B

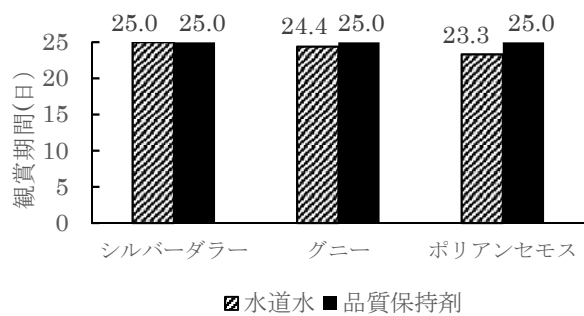


図2 ユーカリ切り枝の品種と活け水の違いが観賞期間に及ぼす影響
A 夏期 (7月14日～29日)、B 春期 (3月16日～4月10日)

[資料名] 令和2(2020)～令和4(2022)年度試験研究成績書(花き・観賞樹)
 [研究課題名] 新規切り枝品目の検索
 [研究期間] 2020(令和2)年度～2022(令和4)年度
 [研究者担当名] 山元恭介
 [協力・分担関係]